第５章

調査

（1）保護者（利用者）及び支援者アンケートの調査分析

武庫川女子大学教育研究所助手
橋詰啓子

平成22年度に引き続き、23年度も子育て支援に関する調査を実施しました。今年度の調査では、利用者（保護者）には主に子育ての現状と利用状況及び支援の効果についてお聞きし、支援者には主に支援の現状と自己評価及び今後の方向性について回答していただきました。アンケートは保育所が運営主体となっている子育て支援センターの利用者200名と子育て支援に携わる支援者246名の方にご協力いただきました。この調査結果を今後の子育て支援に少しでも役立てていただけるよう願っております。

1．調査の方法

調査対象

利用者

平成23年７月、柏さかさい保育園（千葉県）、常盤台保育園（富山県）、勝山保育園（山口県）、山東保育園（熊本県）、杉の子保育園（宮崎県）に併設されている子育て支援センターの利用者を対象としています（宮崎「おやこの森」は単独型子育て支援センター）。本調査研究委員でもある各施設長に依頼し、センター利用者へ調査票を配布し回収しました。回答者は各園40名、合計200名で、回収率は100％でした。

支援者

平成23年８月25日（木）～26日（金）「第３回子育て支援センター全国セミナー2011」の参加者440名に調査票を配布し、大会終了後に回収をしました。回答者は246名で、回収率は56％でした。

2．調査結果と考察

《利用者の調査結果》

（1）回答者（保護者）の属性

回答者の子どもの人数は、１人が63％、２人が25％で、子育て支援センターの利用者のほとんどが一人目の子育てをしている保護者でした（表１）。保護者の年齢は、30代がほとんどで（72.5％）、住んでいる地域は市街地が過半数（52.0％）、郊外（34.5％）となっています（表２、３）。

表１　子どもの人数

	人数	%
１人	126	63.0
２人	50	25.0
３人	22	11.0
４人以上	2	1.0
合計	200	100.0

表２　利用者（保護者）の年齢

	人数	%
10代	2	1.0
20代	37	18.5
30代	145	72.5
40代以上	11	5.5
無回答	5	2.5
合計	200	100.0

表３　居住地域

	人数	%
市街地	104	52.0
郊外	69	34.5
工業地	0	0.0
農村漁地	2	1.0
無回答	25	12.5
合計	200	100.0

（2）子育て支援の利用状況

子育て支援センターの利用状況については、約半数（51％）が週に１～３回程度利用しています。１回の利用時間はほとんどの利用者が２～４時間でした（図１、２）。

図１　センター利用回数

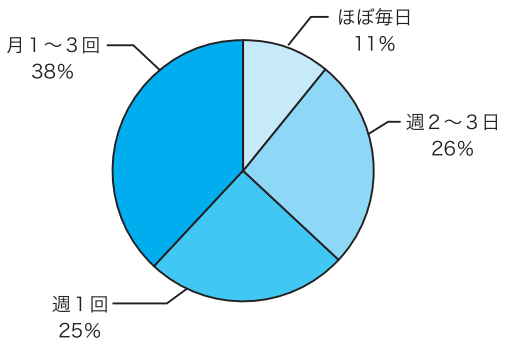
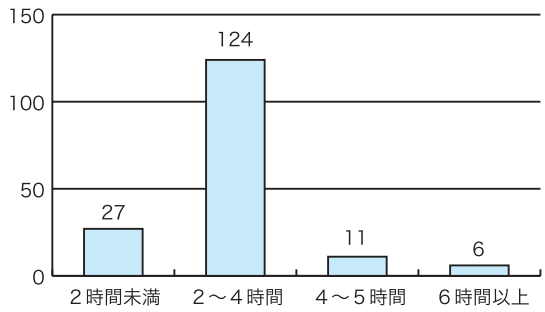


図２　１回の利用時間



子育て支援センター以外で利用している施設の数（表４）については、センターのみは35人（17.7％）、センター以外の施設を１～３ヶ所利用が153名（77.2％）でした。いずれの地域でも、対象となった子育て支援センターを含め複数の子育て支援施設（２～４ヶ所）を利用しているのは（82.3％）という現状でした。

表４　地域別　センター以外の利用施設人数（複数回答）

利用施設数	千葉	富山	山口	熊本	宮崎	平均（％）
なし	12	10	4	5	4	35（17.7）
１ヶ所	17	17	18	14	20	86（43.4）
２～３ヶ所	9	12	16	16	14	67（33.8）
４ヶ所以上	1	1	2	5	1	10　（5.1）

(3) 子育ての状況

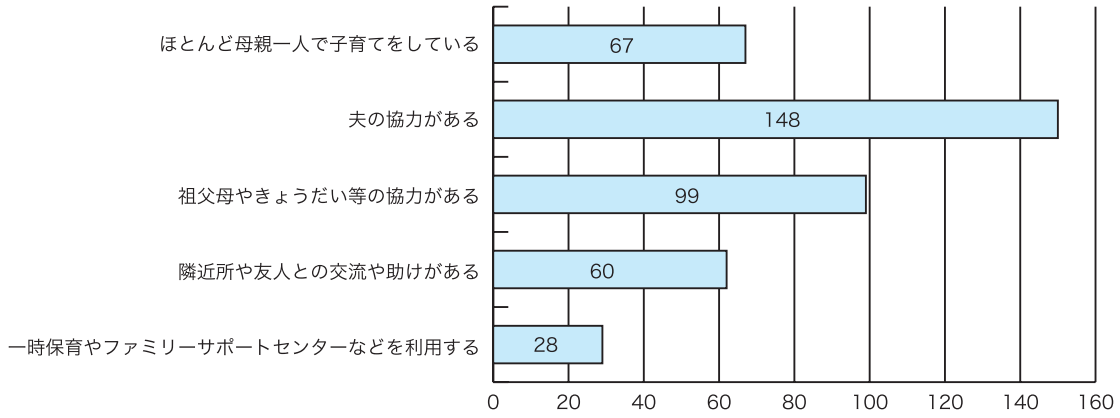
回答者の子育ての状況については、複数回答で「ほとんど母親一人で子育てをしている」と答えたのは、地域別の平均で32.5％でした。その中で他の協力や助けがなく、「ほとんど母親一人で子育てをしている」のみに回答しているのは、全体の8.5％でした。ほとんどの保護者は家族など何らかの協力や助けがあり、特に「夫の協力がある」と答えた者は全体で150名、各地域の平均で75％でした。なお、夫の協力の内容や時間帯を含めた量や質、あるいは協力についての認識は今回は詳しく調査しておりません（表５、図３）。

表５　地域別　子育ての状況（複数回答）

	千葉	富山	山口	熊本	宮崎	全体	平均（%）
ほとんど母親一人で子育て	15	16	11	9	16	67	13（32.5）
夫の協力がある	31	28	27	30	32	148	30（75.0）
祖父母やきょうだいの協力	19	18	25	28	9	99	20（50.0）
隣近所や友人の交流や助け	12	6	14	11	17	60	12（30.0）
一時保育やFSの利用	4	8	0	3	13	28	6（15.0）

＊FS＝ファミリーサポートセンター

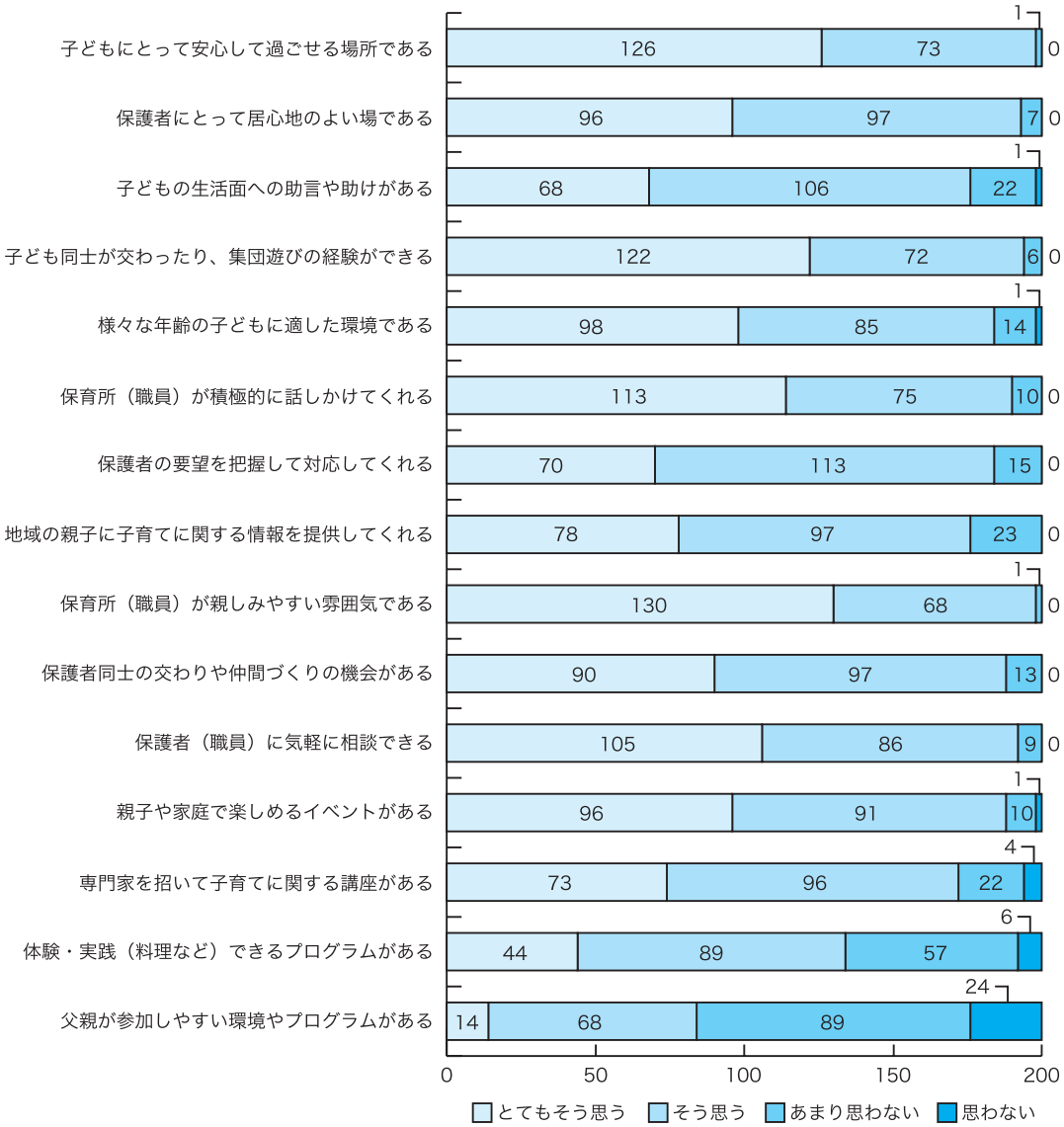
図３　子育ての状況（全体）（複数回答）



(4) 子育て支援を利用した感想（子育て支援の評価）

子育て支援の施設を利用した感想は尺度化をして捉えることとしました。各項目を４件法「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」で回答してもらいました。ほとんどの項目が「とてもそう思う」「そう思う」と答えていて、全体として子育て支援の評価を得ているという結果となっています。しかしながら「体験・実践的（料理など）なプログラムがある」や「父親参加のプログラムがある」といった体験型の活動は、実施されている所や回数が少ないという評価になっています。

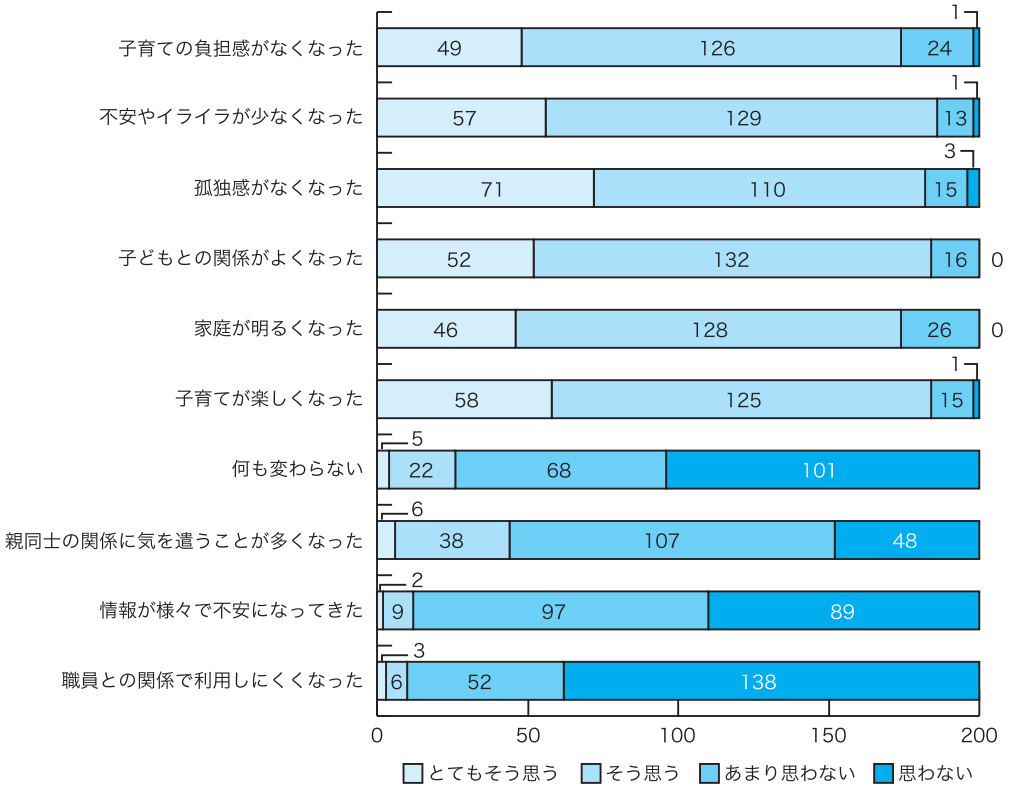
図４　子育て支援施設を利用した感想（評価）



(5) 子育て支援を利用した後の保護者の気持ちの変化

地域の子育て支援事業を利用した後の保護者の気持ちの変化については、プラスの変化を把握するための「負担感の減少」「不安・イライラの減少」「子育てが楽しい」といった項目（6つ）と、マイナスの変化を把握するための「親同士の気遣いが大変」「情報が多くて不安」といった項目（4つ）を用いて調査をしました。調査の結果、プラス面の変化の項目については「とてもそう思う」もしくは「そう思う」という回答が多く、子育て支援を利用することによって、不安やイライラ・孤独感などの減少だけでなく、子育てが楽しくなったということがわかりました。マイナス面の項目では、ほとんどが「あまり思わない」もしくは「思わない」という回答でしたが、「親同士の関係に気を遣う」については、約22％の保護者が「とてもそう思う」「そう思う」と答えていました（図５）。

図５　子育て支援を利用した後の気持ちの変化



(6) 今後必要な子育て支援

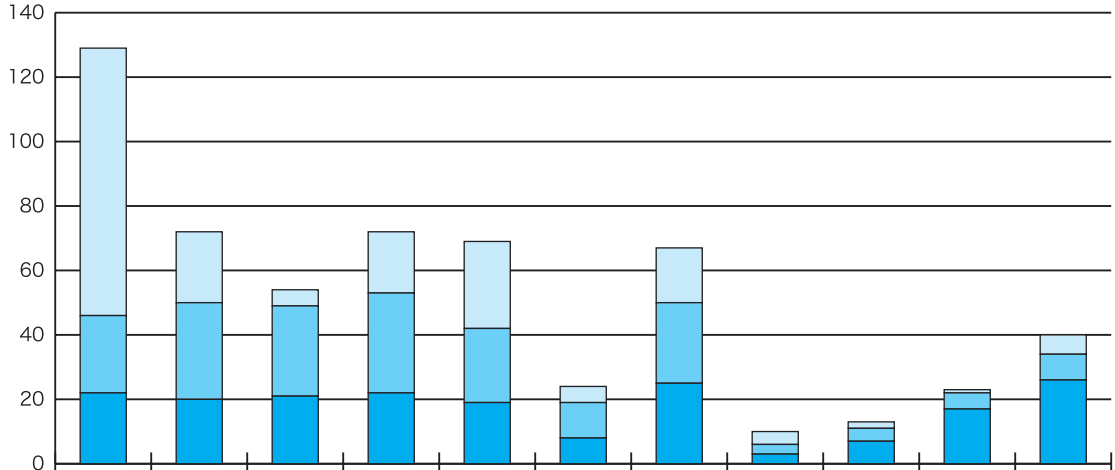
これからの子育て支援事業に必要だと思う項目については、重要とされている子育て支援の優先順位を明らかにするという目的から、支援の方向性に関係する質問を配置し、重要だと思う順に３つ選んで回答してもらいました。その結果、１番必要と答えたのは「子どもの育ちを豊かにする支援」で、２番目３番目に必要と回答した数を合わせても一番多く選ばれていました。次に多く選ばれていたのが「親と子の生活経験が豊かになる支援」で、「仕事と子育ての両立支援」「保育施設や子育て支援施設の充実」などでした。「経済的な支援の充実」や「父親を対象にした支援」などについては、優先的な必要性を感じていないことがわかりました（図６）。

(7) 子育て支援に関する感想・意見（記述の一部）

子育て支援全般に関する自由記述から、子育て支援施設を利用して良かったと感じている保護者が多いことがわかりました。利用している保護者は支援の内容にほぼ満足していると同時に、開所日数、時間等を増やすことやＰＲを広くしていく必要性を感じていることも知ることができました。

- いろいろなイベントがあり、個人では経験できないことが体験できるので良い。家にいて予定がない時など、ちょっと遊びに行こうかなあと気軽に足を運べる場所があるので楽し

図６　今後必要な子育て支援



	子どもの育ちの豊かさ	負担にならない	子育てのノウハウ	生活経験の豊かさ	仕事と子育ての両立	経済的支援	保育・子育て施設	虐待予防・発見	児童期の支援	父親支援	高齢者や地域
1 番	83	22	5	19	27	5	17	4	2	1	6
2 番	24	30	28	31	23	11	25	3	4	5	8
3 番	22	20	21	22	19	8	25	3	7	17	26

いです。

- 困ったことがあった時、プロの先生方に相談できるのは本当に心強いです。たくさんのお母さんとも話ができるし、家のなかで自分と子どもだけの孤独感に悩むことはなくなりました。
- 子育て支援事業があってとてもありがたい。保育園に通っていない子どもでも集団で季節の行事ができることがとても気に入っている。気軽に出かけられるところがあり、家にこもりがちな乳児の親は助かる。
- 保育士さんが普段子どもたちに接する姿を見学させていただくことが、とても良いお手本になりました。そんなに怒ることじゃなかったんだな、と静かに反省したり学ばせていただいています。自分の子育てと、園での育て方を比較することは、とても子育て素人の私にとって良い体験となっています。
- 支援センターに出かけるようになってから子育ても少し楽になったように思います。一時保育が併設されているので、いつも遊んでいるところで知っている先生に見てもらえるのは安心できます。一時保育は用事のついでに息抜きもできてとても助かるし、リフレッシュにもなります。
- 子どもたち同士も遊びを通して遊びのルールや約束事を少しずつ理解できるようになったと思います。子どもも支援センターで人と触れ合うことが楽しいようです。
- 利用時間が短いので、時間が長くなるといいなと思います。「午前中のみ」などは利用しにくいです。

- 地域ごとに支援センター（毎日利用できる、時間も長く利用できる）数を増やしてもらえると助かる。車を利用せず歩いて通えると負担少ないし利用しやすい。
- 利用させてもらってとても楽しく助かっています。でも来られたことのない人やなかなか行きづらいという声もママさん達から聞きます。もっとどんな所かアピールしていく必要もあるのではないかと思います。もっと利用しやすい場所になると思います。

《支援者の調査結果》

（1）支援者と施設について

①　回答者の年齢と経験年数

回答した支援者の所属する運営主体は、公営31％、民営64％です（図７）。それぞれの年齢、保育の経験年数、子育て支援の経験年数、職位については図８～図11のとおりです。

図７　運営主体

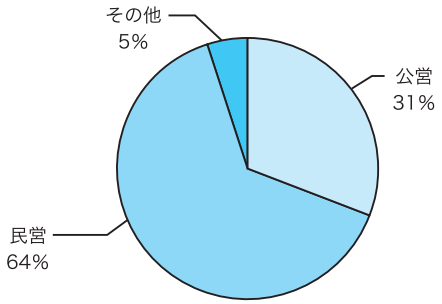


図８　年齢

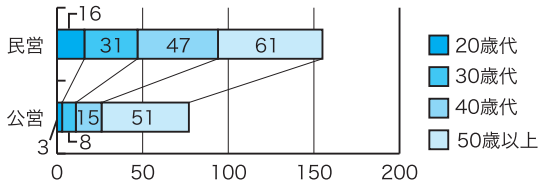


図９　経験年数（保育）

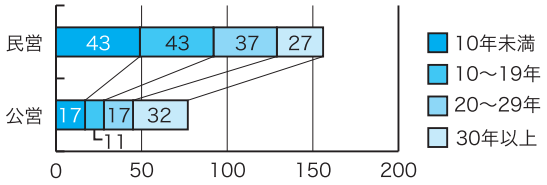


図10　経験年数（子育て支援）

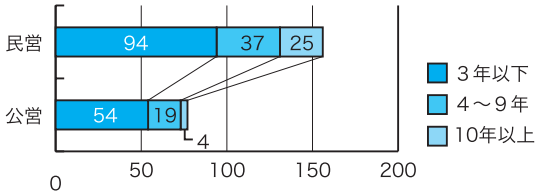
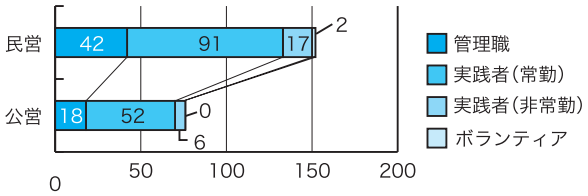


図11　職位



②　回答者の所属する施設について

支援者の所属する施設は、ほとんどが保育所に勤務する保育士であり、保育所併設型子育て支援センターあるいは単独型子育て支援センターに所属しています（図12）。

施設の地域、開所日数、利用人数、子育て支援の実働年数については、図13～16のとおりです。

図12　勤務（担当）施設

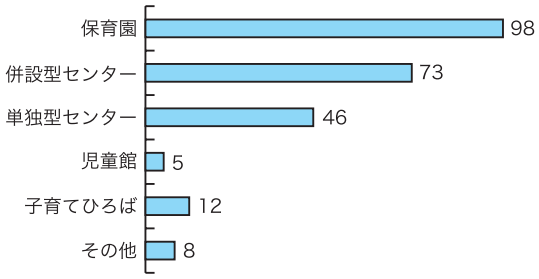


図13　施設の地域

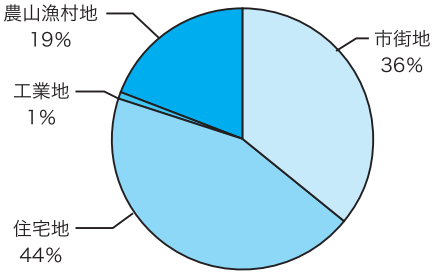


図14　週の開所日数

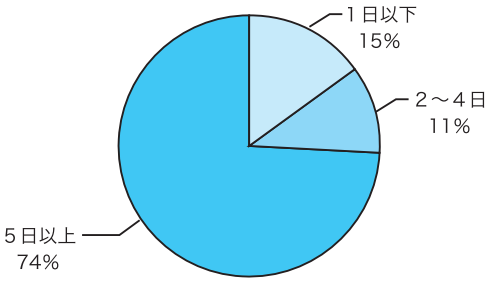


図15　1日の利用人数

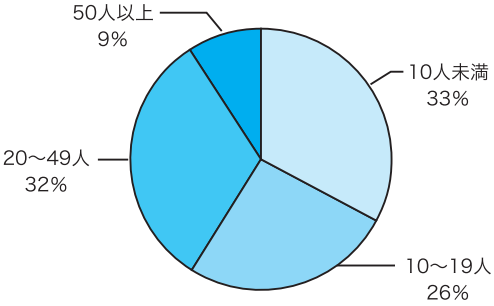
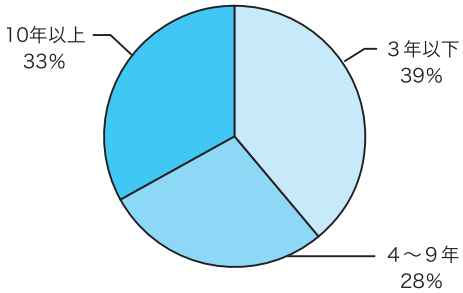


図16　子育て支援の年数（施設）



(2) 子育て支援の活動内容

現在行っている支援活動（複数回答）は、回答の多い順に「子育て相談」「親子遊び」「子育て情報の提供」「子育て講座」「園庭や保育室開放」となっています（図17）。これらの活動は、各施設で現在「力を入れている」ものとなっています。そして、現在の実施は少ないが今後取り組みたい活動としては、「父親参加のプログラム」「地域との交流」「親支援プログラム」「訪問支援」が挙げられています（図18）。

図17　現在行っている活動内容（複数回答）

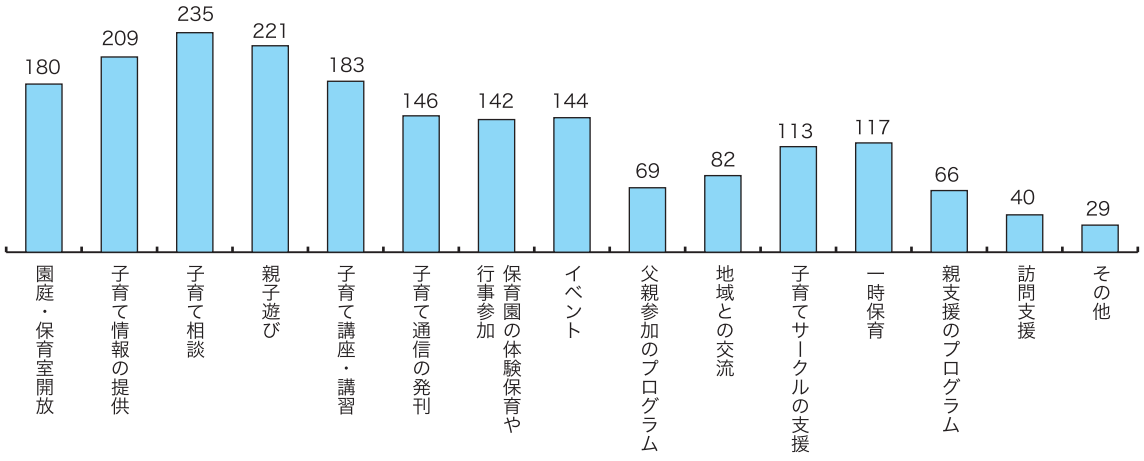
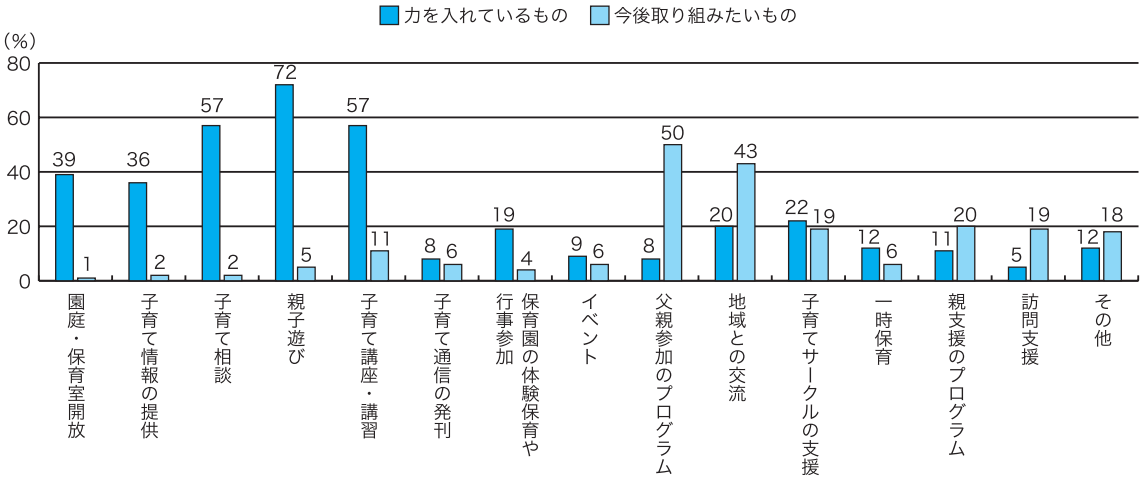


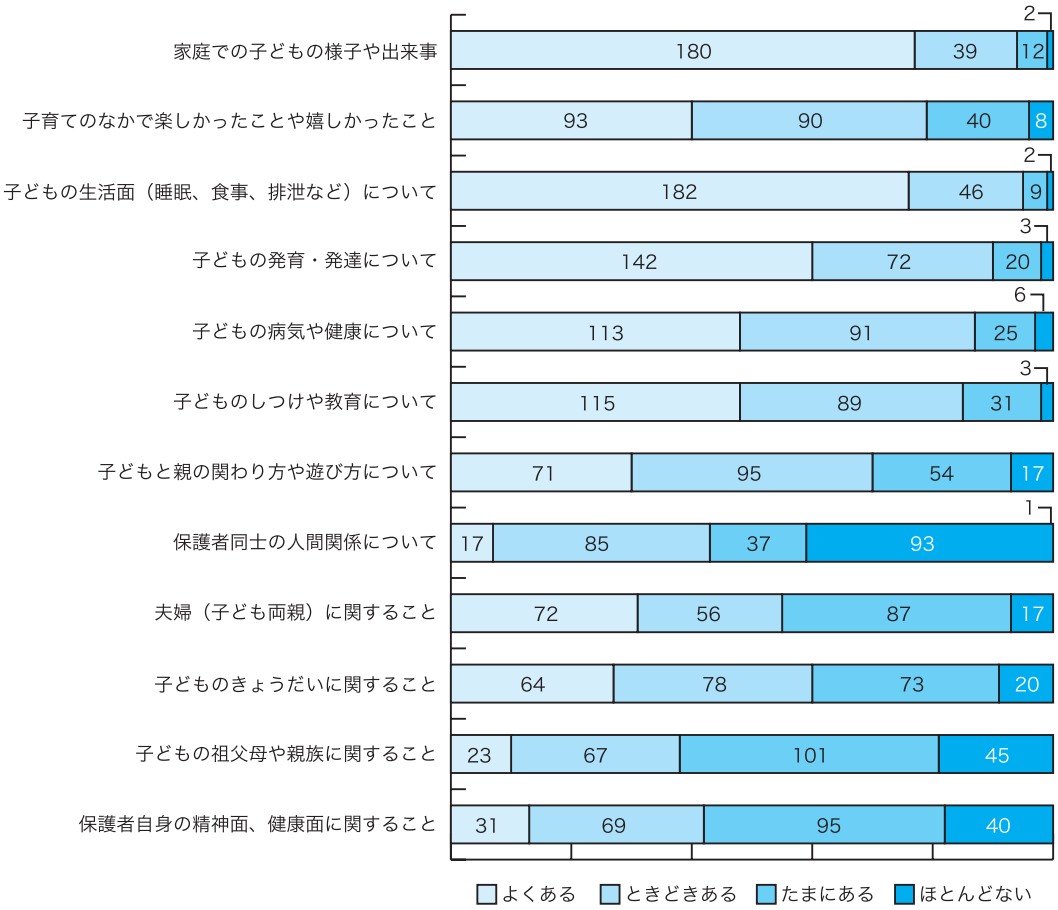
図18　活動内容について（複数回答）



(3) 子育て相談について

子育て支援活動の中で保護者から受ける話は、「家庭での子どもの様子」「子どもの生活面について」などで、子どもに関する日常的な様子についての内容が多いという結果でした。子どもに関する保護者からの相談では、「発育・発達」「病気や健康」が多いという結果でした。これらの対応に関しては、保育士としての知識や経験を活かせる内容であると推測されます。夫婦に関する相談は「よくある」と「ときどきある」を合わせると50%を超え、保護者自身の精神面や健康面に関しては、「よくある」と「ときどきある」を合わせると40%を超える結果となっていました（図19）。

図19　保護者からの会話や相談



子育てに関する相談内容についての自由記述では、保護者の不安な気持ちにより添い、話しの内容や気持ちを受け止め対応していることが多く述べられていました。しかし相談の内容によっては、聞いているだけでは解決にならないケースにも直面し、試行錯誤をしながら対応していることがうかがえました。

〈保護者の子育て相談に関する記述の一部〉

- 保護者の方とお子さんの成長についてともに喜び合えるときは嬉しく思います。相談については、自分の思いを聞き入れてほしいときを見極めて、どの程度助言すべきか迷うときがあります。
- 話をしてくれるお母さんは意識の高いお母さんが多く、○○しなければいけないのでは…というところで思うようにいかず、しんどいことが多いのではないかと思う。そういう方に対して肩の力が抜けるような話をすることが多い。本当に困っている方はなかなか話をしに来てくださらないのかも…。
- 保護者の口調から軽い相談を感じることも内容的には重要な面を含んでいる事もあり、その見極めを誤らないことが大切と思う。

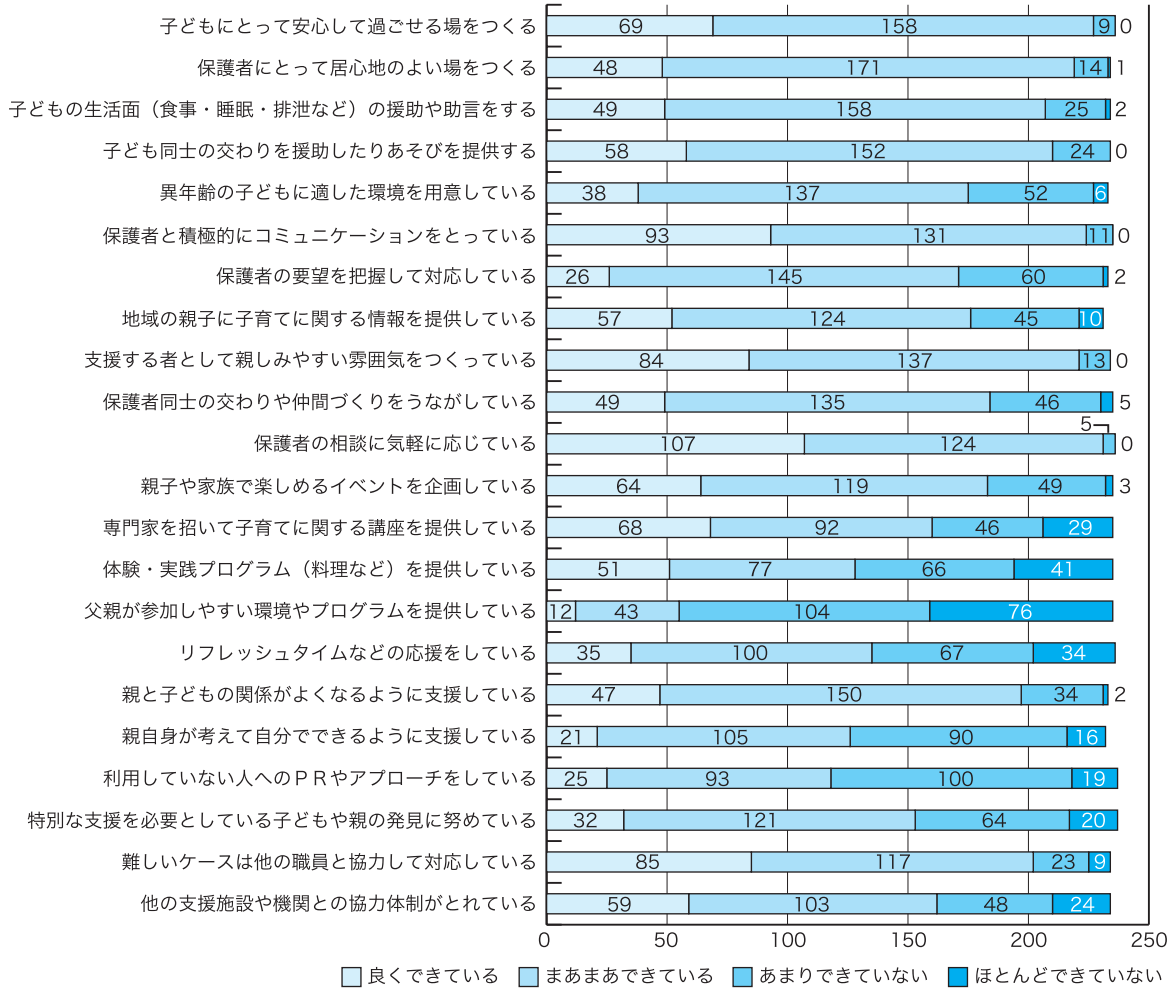
● 話を聞いてあげることが第一かと思うが、それだけでよいのか。心が病んでいるお母さんが多いことを思うと、どう対応していったらよいのか悩む。

(4) 子育て支援の自己評価

支援者が行っている支援として「よくできている」という自己評価の高いものは、「保護者の相談に気軽に応じている」「保護者と積極的にコミュニケーションをとっている」「親しみやすい雰囲気をつくっている」であり、保護者への配慮に努めていることがわかります。「よくできている」と「まあまあできている」を合わせ高い割合を示したのは、「子どもにとって安心できる場」「保護者にとって居心地のよい場」の提供や「子どもの生活面の援助」「子ども同士の遊びの提供」などでした。保育所の保育士が日常的にしている業務内容についての評価が高いことがわかります。

評価の低いものとしては、「父親参加のプログラム」や「親が自立できる支援」となっています。また「利用していない人へのＰＲ」や「特別な支援が必要な親子の発見」については、「あまりできていない」「ほとんどできていない」という回答でした（図20）。

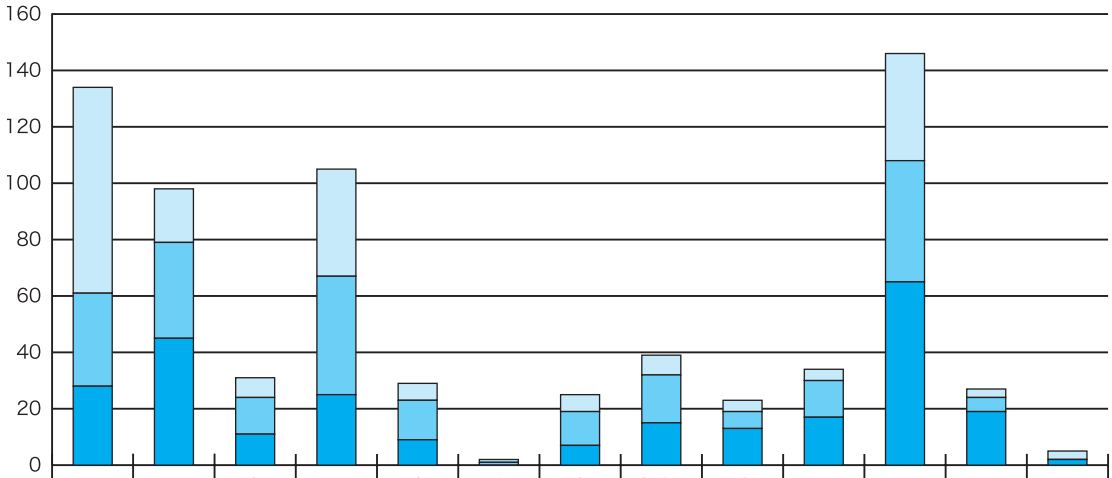
図20　子育て支援の自己評価



(5) 今後必要な子育て支援

今後どのような方向性が子育て支援には必要かという問いに、優先順位１番から３番までを回答してもらいました。１番から３番までの回答合計では、「子どもから高齢者まで地域の人がつながるための支援」が最も高く、また１番必要な子育て支援として選ばれた項目は「子どもの育ちを豊かにする支援」でした。他は「親と子の生活経験が豊かになる支援」「保護者にとって子育てが負担にならない支援」が多く選ばれていました（図21）。

図21　今後必要な支援

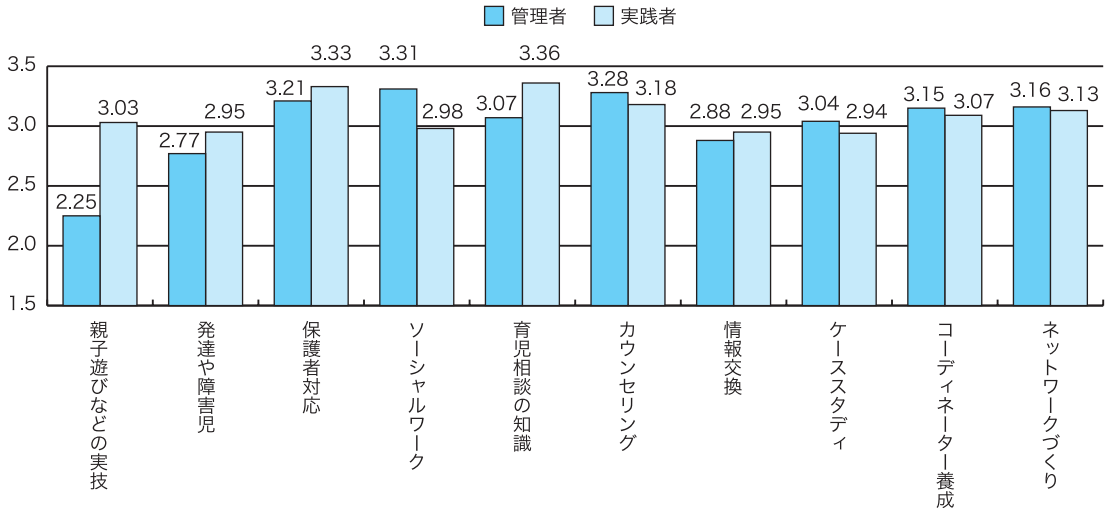


	子どもの育ちを豊かにする支援	子育てが負担にならない支援	子育てのノウハウ	親と子の生活経験を豊かに	仕事と子育ての両立支援	経済的な支援の充実	保育や子育て支援施設	虐待予防・発見	児童期の子どもや親の支援	父親を対象にした支援	地域の人に繋がるための支援	親のリフレッシュタイム応援	その他
1番	73	45	7	38	6	1	6	7	4	4	38	3	3
2番	33	34	13	42	14	1	12	17	6	13	43	5	0
3番	28	19	11	25	9	0	7	15	13	17	65	19	2

(6) 子育て支援者として望む研修

支援者が今後参加したい学びや研修として、「保護者との関係づくりや対応」「育児相談のための知識や方法」といった保護者に対する支援の方法が全体として求められていることがうかがえました。図22の管理者と実践者の比較では、実技や子どもに関する学びは実践者の方が強く求め、ソーシャルワークやカウンセリングについては管理者の方が強く求めていました。（４＝とても参加したい、３＝参加したい、２＝できれば参加したい、１＝あまり望まない：図22の数値は４件の平均）

図22　今後参加したい研修



(7) 子育て支援に関する意見

子育て支援に関する意見として、運営上の困難さや問題点、支援者としての力量、保育園と子育て支援との関係、他施設との連携等に関する様々な意見が述べられていました。しかし困難や問題を抱えていても、新たな課題を発見しながら前向きに取り組もうとしていることが、記述からうかがえました。

〈子育て支援に関する意見・記述の一部〉

- 自分が子育て支援を担当していると、とても重要な立場だと思う。しかし保育所の中や行政としては、保育の片手間に行うとか、臨時職員を担当にすることが多い。どうしても連携がうまくいかないことがよくある。子育て支援をどうアピールしていくか考えなければならないと思っている。
- ただ単に遊びの提供だけでなく、乳幼児期から続く子育て支援、先のことを考えられるようにしていきたい。
- 求められるものがどんどん大きくなっている。行政との連携が益々求められていくように思う。地域のばらつきがないように対応していけたらよいと思う。また「個人情報保護」という言葉に縛られて思うように動きが取れない。
- 自治体に公立のセンターは１ヵ所で、もう１ヵ所ある民間園のセンターとの交流も諸事情でほとんどありません。他のセンターとの交流やこのような研究会、セミナーなどで視野を広げる機会を多く持ちたいです。そうでないと目の前のプログラムをこなすことに精一杯になり、「本当に必要な支援とは？」を考えることが難しい状況になります。センターの３人の職員だけで方向を見出していくことに限界を感じています。
- 支援をしている中、与えているだけのものにならないように気をつけていきたい。サークル支援に行くことが（９ヶ所)、どれも15年以上続いている。その継続の難しさも感じるが、

お母さんたちの力をもっと引き出し、支援を続けていきたい。

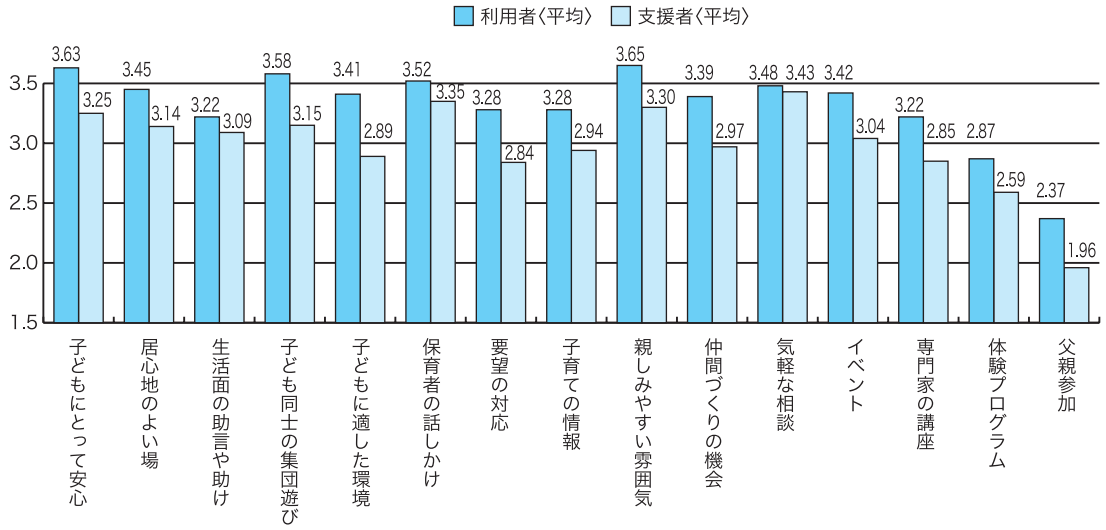
- 子育ては生まれたときから始まっている。その地域で一貫した育ち（せめて義務教育で）のプロセスが大切。就学前は支援センター（ひろば）、乳幼児期は幼稚園、保育所、そして小学校、中学校の連携がこれからますます必要とされる。

《利用者と支援者の比較》

（1）子育て支援の評価

図23に示す15項目についての子育て支援の評価では、全体的に利用者の方が高い評価をしています。支援者は現状の支援に対してある程度の評価をしていますが、「あまりできていない」と感じている者も多いようです。また、管理者と実践者の比較では、管理者の方が全体的に評価が高く、直接支援している実践者は自己評価が低いことがうかがえます。

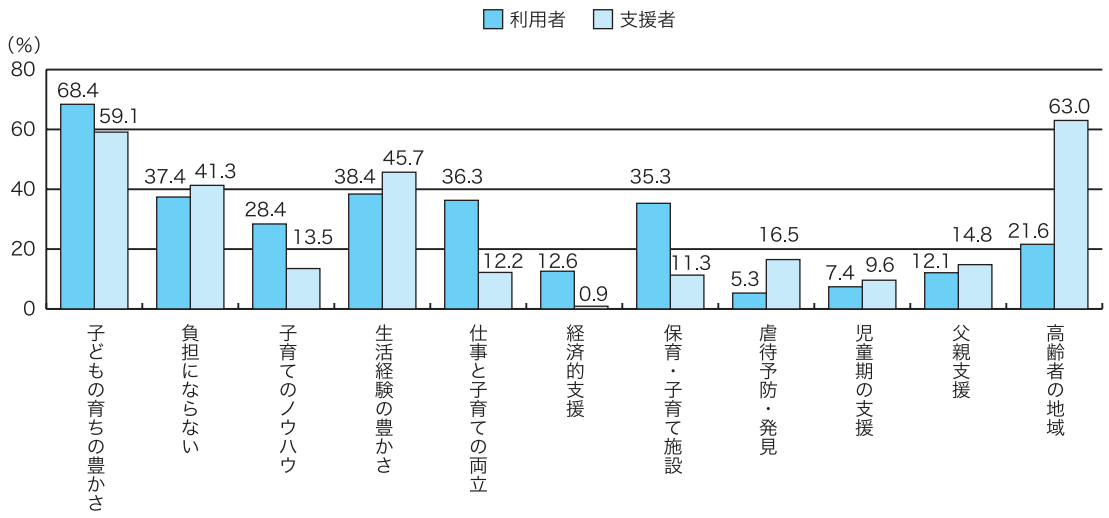
図23　子育て支援の評価（感想）―利用者と支援者の比較



（2）今後必要とされる支援

図24のグラフは、利用者と支援者が重要として選んだ項目の比較です。今後必要とされる支援の方向性として、「子どもの育ちを豊かにする支援」については利用者も支援者も多く選んでいます。「子どもから高齢者まで地域の人がつながるための支援」については、支援者の多くが必要としていますが、利用者は少ない結果となっています。利用者にとっては、「仕事と子育ての両立」「保育・子育て支援施設の充実」を多く望んでいますが、支援者の選択は少ないという結果でした。

図24　今後必要とされる子育て支援―利用者と支援者の比較



〈まとめ〉

調査の協力をしていただいた子育て支援センターは、積極的な支援を展開している保育所が中心となっています。

利用者からの回答では、地域の子育て施設を積極的に利用し、その支援内容に対して評価が高く、満足感を示しているという結果になっています。そして、子育て支援を利用して子育ての負担感がなくなった、子育てが楽しくなったなどの気持ちの変化があったことが結果として示されています。

支援者アンケートに協力していただいたのは、ほとんどが保育所、子育て支援センターに所属する保育士となっています。子育て支援は始めたばかりという支援者から10年以上携わっている支援者と様々ですが、それぞれの場で利用者のニーズに合わせて努力していることがわかりました。しかし現在行っている支援が十分だとはしておらず、支援内容を充実させていくことや未利用者へのアピールの必要性などを課題としています。また支援者としての技術の習得や学びを深めていくことも必要であると感じています。

今後必要とされる子育て支援の方向性の問いでは、利用者と支援者との間で違いが見られました。利用者は地域とつながる支援をそれほど必要と考えていませんが、支援者は多くの者が重要であると考えています。子育て支援は子どもの専門家だけで行うものではなく、地域全体で取り組むべきものであることを意識していることがうかがえます。

最後に、多くの利用者と支援者のみなさんに、調査のご協力を頂きましたことを感謝いたします。調査の結果を今後の支援に役立てて頂けますと幸いです。

（2）常盤台保育園子育て支援センター「ぶーふーうー」（富山県富山市）現地調査

■施設見学とヒアリングの報告

富山市における子育て支援センターのネットワークの中でも、地元の評判の良い常盤台保育園のヒアリングをすることとなり、常盤台保育園子育て支援センターと分園みなみ館を見学させていただきました。子育て支援センター「ぶーふーうー」は平成21年に新設され、地域の子育て家庭の憩い、ふれあい、情報交換の場となっています。

■地域の特徴

郊外の住宅地として急激に田園から住宅地として変わった地域で、近年新興住宅地となり若年層の人口が増えています。そのため子育て家族も増え、保育所・幼稚園・小学校に通う子どもが増加し、郊外の住宅地として急激に田園から住宅地として変わった地域にあります。センターの利用者は、共働き家庭や育児休業中の母親もいますが、ほとんどは専業主婦で子育てをしている母親です。周囲は田畑が多く、自然にも恵まれた環境にあります。

■開設の経緯と施設の特徴

元々全保育園で保育サークルを行っていて、施設を借りて保育士が年33回20人を対象に支援活動をしていました。これが発展して今の支援センター中心の子育て支援となり、市の委託事業として平成21年４月、センター型子育て支援がスタートしました。

センターは常盤台保育園・分園のすぐ隣りで、保育園から独立した施設となっており、担当の保育士が常駐して対応しています。センター内で一時保育を実施していますが、日頃からセンターを利用して慣れている親子にとっては、安心して利用できるという利点があり、利用希望者が多いという現状です。駐車場も広く整備されていますので、ほとんどの利用者が車で来所します。

■開設から２年の歩みと成果

保育園の子どもたちの様子を見ることができたり、関わりが持てたりする、そして周囲の保育園とも関係を築いていける施設を目指しています。乳幼児の子どもたちを対象に、保護者と子どもが共にのんびりゆったりと過ごす場所として始まり、家にいるときと同じように大人も子どもの“ほっ”とできる空間と時間になるよう配慮されています。開設して良かったことは、保育士が子育て支援を通して保護者や子どもについて理解を深める機会になっているということです。

■保育士（スタッフ）の働きと意識の変化

スタッフ３名（正規１名、臨時２名）が担当し、親同士・子ども同士の関わりを援助していくことを大事にしています。指導者のように「作る」「見せる」「遊ばせる」ということはしないようにしていて、利用者は次第に支援センターのやり方をわかって主体的に参加するようになっています。保育士にとっては保育所とは違う保護者の姿や思いを知る機会になり、母親の視点に立って考えられるようにもなりました。また子育てに関する相談を受ける機会が増え、保育士自身が必要性を感じて、予防接種や医療的なことなどもよく勉強するようになりました。保育士研修での内容をまとめた指導書（ダイジェスト版）を作成し、日々の保育や子育て支援に活用しています。保護者用としても子育てに役立つようなパンフレットを作成して活用してもらっています。

■利用状況について

月平均2,000人、１日30～50人は利用していて、一時保育の希望者が増えています。新登録者は１日５～６人。午前中の「にこにこタイム」を目指して参加する人もいれば、昼食を持って午前午後と続けて参加する人もいます。子育て相談の件数は、月平均30件、相談内容は多い順で「発達」「生活習慣（排泄・食事・睡眠）」「入園」「育児不安」などとなっています。最近は利用者同士の関係づくりや問題を抱える親のケアについて難しいケースも出てきています。

■今後の取組みについて

これからは他の機関とのネットワークづくりが必要になります。保健所とのつながりが全くないので、子どもや子育て家庭の情報が共有されていません。これからは医療・保健とのネットワークをつくっていきたいということから、行政が子育て支援を積極的に進めています。そのことが地域を活性化させていくことになります。ＮＰＯの子育て支援やひろば事業との関わりや情報も少ないので、つながっていく方法を考えたいということです。

■地域における子育て支援として「ぶーふーうー」の課題（方向性）

利用者がお客さんになって参加するのではなく、親たち自身が主体的にやりたいことができるようにしていくことが課題です。親の持っているものを引き出して、子育て支援のなかで力を発揮してもらう機会を増やしていく、そのことが親の社会性を育むことになると考えています。例えば、お母さんたちに参加してもらう（うた、手遊び、絵本の読み聞かせなど）、お母さんの特技を披露してもらうなどの機会を増やしていきたいと思っています。利用者は多く、リピーターも多いですが、どこにも属していない、支援から抜けている親子をどうしていくかを考えています。

■活動内容と設備

・主な活動内容として、にこにこタイム（保育士と遊ぼう）・製作（水遊びおもちゃなど）・水遊び、プール遊びなど、誕生会、季節の行事、身体測定などがあります。

・育児サロンは、幼い子どもたちが安全に遊べる環境を整える、親子で触れあったり、お母さん同士の情報交換の場、親子が共にのんびりゆったりと過ごす場を提供しています。

・部屋はままごとコーナー、絵本コーナー、知育教材コーナーなどにわかれ、自由に子どもが好きな場所で遊べる空間が工夫され、昼食持参の親子のために食事ができるスペースもあります。

・育児講座では、子育てに大切なことを学び合います。わらべうた、絵本の読み聞かせ、ベビーマッサージ、食育教室、歯磨き指導、親子リトミックなど。

・子育て相談では、子育ての悩み、子どもと家庭の問題について一緒に考え、子育てに関する様々な情報を提供しています。看護師、管理栄養士、歯科衛生士などによる相談もあります。

（3）延岡子育て支援センター「おやこの森」（宮崎県延岡市）現地調査

■施設見学とヒアリングの報告

平成24年２月23日（木）に杉の子保育園および延岡子育て支援センター「おやこの森」そしてまちなかキッズホームを見学させていただきました。延岡子育て支援センター「おやこの森」は、平成12年に建設され、平成16年保育サポーター派遣事業を始め、平成17年にはファミリーサポートセンター事業の委託を受け、平成21年からは、家庭支援スタッフ訪問事業を始めています。

■地域の特徴

延岡市は宮崎県北部に位置する人口13万人を擁する宮崎県北部の中心地です。西方に九州山脈、東方に太平洋を望み、市内には４つの川が流れる自然に恵まれたところです。延岡市では、「おやこの森」を平成11年に建設する以前から、延岡市内の認可保育園（現在36ヶ園）が「１園の百歩よりも皆の保育園の１歩」を合言葉にお互いに協働しながら、地域の子育て支援に取り組んでこられました。特色として市内の民間保育園（27ヶ園）で組織している法人立保育園協議会の中に子育て支援部会を設置され、地域住民や行政と連携・協働しながら子育て支援に取り組んでこられたことが背景にあります。

■延岡子育て支援センター「おやこの森」開設の経緯と施設の特徴

子育て支援センター「おやこの森」は平成11年３月に延岡市内の社会福祉法人立の認可保育園が共同で建設しました。宮崎県内は36ヶ所ほどの子育て支援センターがありますが、ほとんどが保育所併設型で、延岡市のように認可保育園が共同で設置している子育て支援センターの事例はありません。全国的にもめずらしい例です。早くから延岡市では保育所の行う育児相談が盛んで、子育て支援イベントの開催や親子の交流などが支援センターの素地をつくりあげたと思われます。

■開設からの歩みと成果

平成12年４月延岡子育て支援センター「おやこの森」開設以来、ここを拠点に個々の保育園では対応が難しい家庭支援も実現し、独自の子育て支援を続けてこられました。

オープン後、多くの人たちが訪れるようになり、来館者数は毎月千名超となり年間の利用者数が１万３千名を下回ることはなく人口の１割以上になっています。

「おやこの森」の活動は子育て広場としてのセンターの開放、育児相談、子育て通信の発行、テレフォンサービスによる育児情報の提供、まちなかキッズホームの運営、子育てサークル支

援、ボランティアの養成や育児講座の開設、保育サポーターの派遣、育児用品の貸出し、ファミリーサポートセンター事業、病後児保育等、多彩な実践の積み重ねがあります。

そのなかでも家庭へ出向く訪問相談や保育サポーターの派遣が「おやこの森」の特徴的な取り組みです。

■保育士（スタッフ）

スタッフは保育士２名、保育士補助２名、看護師１名の計５名とのことです。相談員、サポーター、ボランティアなど多くの応援があります。

■キッズホームについて

相談者を待つのではなく、こちらから出向いて「すこやか子育て相談」を平成６年から始め、町中の大型小売店で保育園が出向く育児相談が盛況となりました。

この大型店での育児相談は、平成16年で中止の後、幸町商店街の一角に出来た商業複合施設「ココレッタ」の中の「まちなかキッズホーム」で集いの広場事業としての相談事業が発展しています。

■これからの取組みについての展望

これからの子育て支援活動の展開は「親」への子育て支援にとどまらず、子ども達一人ひとりの「育ち」への支援を視野に入れて総合的な子育て支援の拠点づくりを目指しておられるとのことです。

そこで木本宗雄先生にこれからの展望について、下記のことをお聴きしました。

おやこの森の未来への展望について

進むべき方向として、一つの保育所で取り組むよりも全体で取り組む方がいいと思っています。また、これからは子育て支援に企業や事業所、商店街などを巻き込んだ社会全体での支援体制づくりが重要です。

誰もが子どもを安心して産み育てられる社会を実現するための啓発活動を積極的に取り組んでいきたいと考えています。

これからの子育て支援活動の展開としては、「親」への子育て支援にとどまらず、子ども達一人ひとりの「育ち」への支援を視野に入れています。つまり、子育て支援を学童まで含む「人づくり」に力を入れて行こうと考えています。こうなると、いまの「おやこの森」では、施設の規模的にも場所的にも限界です。子育て支援センターと児童センターを合体させたようなワンランクアップした総合的な子育て支援の拠点づくりが当面の目標です。

地域のみんなと協働しながら何としてもこの夢を実現したいと考えているところです。

（事務局）

（4）第３回子育て支援センター全国セミナー2011 in 富山

2011年８月25日(木)～26(金) 富山国際会議場に於いて、第３回子育て支援センター全国大会が開催されました。地域社会で「子ども・子育て支援」―すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして―というテーマで開かれた大会に、全国の子育て支援に携わっている441名が参加しました。今回のセミナーは、センター型・ひろば型・児童館型が一堂に会し、支援センターの型の違いを超えて連携し、情報交換を行う機会となりました。

■開催日程

８月25日（木）

12：00	受付
13：00	開会式
13：30	行政説明
14：30	事例発表
15：45	シンポジウム
17：15	初日終了
18：00	交流会

８月26日（金）

9：00	分科会
11：45	昼食
12：45	オープン発表
13：30	富山宣言・次回開催地紹介
14：00	休憩
14：30	記念講演　神埼ゆう子さん
16：00	閉会式

■行政説明

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」と題して、厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課・少子化対策企画室長である黒田秀郎氏より、行政としての子育て支援の流れと方向を説明していただきました。

A）地域子育て支援拠点事業の流れ

子育てには保育所が中心となって役割を担ってきたが、地域の在宅の子どもへの支援が広げられてきました。また地域の当事者が行う地域初の流れとして、ひろば型の子育て支援も広がっていきました。この当事者発の活動が制度を作っていった動きは今後も発展していくでしょう。

B）地域子育て支援拠点事業「ひろば機能拡充」について

ひろば型のうち、地域の子育て支援拠点として、多様な子育て支援活動を実施し、関係機関とのネットワークを図り、子育て家庭へのきめ細かな支援を行い、機能拡充を図ることとしています。このネットワークのなかには、一時預かり、放課後児童クラブなどを含めています。虐待予防は、全戸訪問事業としてのアプローチや、ひろば型が市役所や保健所とつながることを勧めています。

C）「子ども・子育てビジョン」平成22年1月29日閣議決定

「子ども・子育てビジョン」の政策４本柱として①子どもの育ちを支え、若者が安心して成長できる社会へ、②妊娠、出産、子育ての希望が実現できる社会へ、③多様なネットワークで子育て力のある地域社会へ、④男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ、を掲げています。

〈子ども・子育て新システムについて〉

幼保一体化（こども園（仮称）の創設など）については、幼稚園・保育所・認定子ども園の給付を一本化することで、質を高めることが目的です。今よりプラスアルファの財源と安定的な財源によって全ての子ども家庭を支援していくことになります。「利用者支援の役割」とは、利用者が様々な支援の中から選択する上で、その問い合わせに対応し、助言などを担うことです。

■事例発表

富山県の各地域での子育て支援を実施している保育士の皆さんから、出前保育や支援センターでの事例を劇で演じながら、具体的な支援の内容を紹介していただきました。この事例が発題となり、次のシンポジウムにつながりました。

富山型支援センター事例発表

（ア）黒部市田家保育所　「ママ、こっちをむいて」

（イ）滑川市保育士会　「お母さん、一日の始まりは笑顔で」

（ウ）射水市保育士会　「一人で悩まないで、お母さん」

■シンポジウム

地域社会で子どもの育ちと子育て家庭を支える環境づくりを行う「地域子育て支援拠点事業」がスタートして５年目となります。この事業と関わりの深いシンポジストの先生方に、地域における多様な子育て支援活動をめぐって、今後の子育て支援の方向性と可能性について、それぞれの視点から語っていただきました。先生方の意見の一部を紹介します。

シンポジスト

山　縣　文　治　氏（大阪市立大学生活科学研究科教授）

増　山　　均　氏（早稲田大学文学学術院教授）

大豆生田　啓友　氏（玉川大学教育学部准教授）

倉　石　哲　也　氏（武庫川女子大学文学部准教授）

コーディネーター

宮　田　伸　朗　氏（富山国際大学子ども育成学部教授）

宮田氏：富山における子育て支援は「富山の未来をつくる子育て支援その他の少子化対策の推進に関する条例」が平成21年６月に制定されました。この中には、「みんなで育てるとやまっ子　みらいプラン」として、保育所を中心とした子育て支援が展開されています。

山縣氏：子育て支援センターは小規模型をこれからどうするかが課題で、多様な供給に応じた取組みが必要になります。それには生産者視点と消費者視点と言われるように、事業者視点と利用者視点が重要となります。子育て支援の従事者に「保育士」という資格の条件がなくなって、保育所とセンターの関係も対等になっています。拠点事業としてセンター型を行う保育所の努力義務が問われています。

大豆生田氏：事例発表では、携帯を手放さずイライラして子どもと接しているお母さんを支援の場では、どう関わるかが問われました。「教えていかなくては」という視点ではなく、その人がよりよくなるためにはどのように関わるのかという内容があればよいと思います。NPOとして子育て支援に関わっているが、地域の子どもを虐待で殺してしまったという事件からそのプロセスに何があったのか、母親がいかに追い詰められていたのか、を考えることになりました。NPOはこれからどのようなしくみをつくるのか、個として地域として親とどうかかわるのかを考えているところです。

増山氏：出前保育では、お母さんに共感する保育士の姿が良かったです。解りやすい提起ではあるが、○か×かになっていないでしょうか。子育て支援は子どもとの関わり方を教えることではなく、ワンパターンで、それが「正解」とするのはよくない、もっと柔軟に対応すべきではないでしょうか。私の自宅付近では子どもが遊んでいません。子ども集団が絶滅危惧種になっているという深刻な問題があります。子育て支援が乳幼児期に偏っていないか、児童期の支援はどうするのかが問われます。子どもたちが育ち合う異年齢の集団で、お互いに刺激し合って育っていくものです。乳幼児期だけではなく、その後の児童期を考えて支援していく必要があります。

倉石氏：出前保育での事例のオチはどうするのかが気になりました。「こうしてはいけない」というメッセージになっていなかったか、よくない母親を排除してよいのか、そういう家庭もあってよいのではないかなど考えさせられました。きれいな子育てが良いという傾向になっていないか、きれいすぎが良いとは限らないという視点も必要です。保育士が支援すると、きれいな子育てが良い子育てとして評価しがちになります。

大豆生田氏：親が起ち上げた「びーのびーの」では、母親の行為に誰も注意はしません。夜遅くまで子どもを連れて飲み会に行く母親たちは、そのことを通して元気になっていくという例もあります。そして母親同士が仲間になっていきます。それもいいのかな、結果的には親にとっても子どもにとっても良かったのではないかと思います。

増山氏：子育て支援は親が気づいていくプロセスがあればよいのではないでしょうか。家庭教育は当事者が問題を解決していくことが大事です。事例では、その後どうするのかが重要になってきます。母親と一緒に語り合うことが必要です。

倉石氏：事例では保育士が子どもの代弁者となっています。保育者は子どもの代弁者として母親にメッセージを送っていますが、親の代弁者はどうなるのか、困っている親の代弁者はどうするのか。お母さん同士でなんでもしゃべっていい、保育所でも何でも語っていいという雰囲気が必要です。子育ては乳幼児だけではなく、学童期、思春期という連続性のあるもので、連続性、持続性のある子育て支援を考え、枠を外して、広げていくことも必要になります。

山縣氏：「お母さんこのとおりにやって下さい」というのはよくなく、違うものを提示していくことが必要です。いい子育てをしていない―現実にはできない―でも子どもは育っている…これをお母さん同士で伝え合うことで解決することもあります。子育ての専門性は全ての生活を見ることであり、保育士ではなくお母さんができることもあります。子どもの育ちを時間軸で見なくてはいけない、保育士が子育て支援をすると子どもの側の見方になってしまいます。また子育てを父・母の役割として見てしまいます。拠点事業は保育所内の子育て支援とは違うものであり、地域社会、ネットワーク、コミュニティーワークなど、保育にはないものが求められていて、コーディネーターの働きが必要になります。

大豆生田氏：親同士の支援が大事で、そのための専門性として親同士のつながりをサポートすることが重要です。地域支援では保育士が行うものとは違います。プロの支援者は親同士や地域の人とのつながりを考え、他の専門家ともつながるような支え合いを人工的に仕掛けていくことが必要です。

増山氏：イモ洗いは色んなものが交わることできれいになるというように、専門家が方向性を示して導くことではありません。地域子育て支援で注目することは、子どもたちをキャストに入れることです。子ども同士の関わりは大きな力になります。上の子が小さい子の世話をすることが昔は多かったのです。子どもは“あこがれ”を持つと育ちます。“あこがれ”は年上の子と年下の子の間で生まれるものです。子どもたちをキャストに入れて子ども同士で育ち合うことが、子育て支援の大きな力になります。専門性を強めれば強めるほど大人が教えることになってしまいます。

倉石氏：どのように役割をつくっていくのかが重要になります。保育士がやっていることを地域や親にしてもらうこともできます。保育士という専門家がやっていると、親は参加するだけのお客様になってしまい、クレームや苦情にもつながります。親に現場のやりがいを分け与えていくことも必要で、地域の子育て支援は共存しながら、それぞれ

に役割ややりがいを分配していくことが大事になります。

宮田氏：子ども、地域、親という視点から様々な意見交換ができました。集団として支援はどうあるべきか、専門や機能をどう高めていくかという課題にもなりました。ネットワークについても分科会で議論してほしいと思います。子育て支援は奥が深いと感じました。

■分科会

第１分科会　「親育ち・子育ち、共に育つ地域社会」

講師：山縣文治氏　（大阪市立大学生活科学研究科教授）　**事例発表者**：中山　勲氏（柏さかさい保育園園長）

概要：中山氏より「共に育つ地域社会から生まれる子育ち、親育ち」のテーマで、地域社会の機能と役割は何かという問題提起がなされる。山縣氏からこれからの子育ての主体は誰か、子育て支援のあり方についての講義のあと、グループ討議を行う。最後に講師より子育て支援のポイントが挙げられ、全体のまとめとなる。

参加者の感想：○支援センターの役割、保育士の役割について考えたり、具体的な取り組みなどについて学ぶことができた。いろいろな取り組み、事例を聞くことができ、県、市町村、人口により取り組む状況が変わってくる。今私たちに何ができるか問いかけながら地域、行政と共に前進していけるようにしていきたい。

第２分科会　「どこまでできる子育て支援 ―家庭支援―」

講師：大豆生田啓友氏（玉川大学文学部准教授）　**事例発表者**：木本宗雄氏（「おやこの森」理事長）

概要：木本氏より「地域や行政と協働するおやこの森の子育て支援」～育児相談から家庭支援へ～というテーマで事例発表がある。大豆生田氏より「親子のための具体的な取り組みの工夫」についての講義のあと、グループ討議及び情報交換が持たれる。まとめとして受け身だった親と協働していく工夫についてのポイントが示された。

参加者の感想：○利用者がお客様になるのではなく、参加型で運営する仕組みについて考えるきっかけとなった。グループトークでは、行政職同士が交流する機会があればよかった。○ニーズをつかんで実現できる役割を果たしていきたい。地域のなかにとけ込んで当事者の立場を理解して一緒に子どもを育てることに尽力していく大切さを感じた。

第３分科会　「子育て文化、子育てネットワーク」

講師：増山　均氏（早稲田大学文学学術院教授）　**事例発表者**：村上千幸氏（山東保育園園長）

概要：村上氏より「地域で育む文化～地域の縁がわづくり～」のテーマで、熊本でのネットワークとしての取り組みや「ばあちゃんち」という“暮らし”を大切にした支援が紹介される。増山氏より「子どもの輝きを発見し、子育ての喜びを伝え合う」という副題の講義で、子ども集団、子育てで大切なこと、これからの支援センターの役割について話された。

参加者の感想：○独自でやればいいこと、正解は一つでないこと、子育ての文化について再確認できた。○地域の中にある子育て力を利用、発信し広げていくことが大切。子育て支援は乳幼児期だけのことではないので、他の世代も広げていかなければと感じた。次世代リーダーを育成していきたい。

第４分科会　「子育て支援センターの役割とその専門性とは何か」

講師：倉石哲也氏（武庫川女子大学文学部准教授）　**事例発表者**：中川浩一氏（勝山保育園副園長）

概要：中川氏より「子育て支援の専門性とは何か」という問題提起で、支援センターの職員に求められるものとして、受け身ではなく打って出るネットワークを目指すことが示される。倉石氏より「子育て支援は地域の危機にい

かに貢献すべきか」という副題で、支援の方法、支援センターの機能、支援者の課題・方向性についての講義があり、質疑応答がなされた。

参加者の感想：○支援の利用者が支援者になるくらい、こちらのかかわりや働きかけをさらに考えていこうと思った。○これからの課題、公立の子育て支援センターが行政、地域とどうつながってよりよいものにしていくのか考える場となった。

第５分科会　「心豊かな子育て環境」

講師：神川康子氏（富山大学人間発達科学部教授）　**事例発表者**：江蔵昌子氏（三日市保育所主任保育士）

概要：江蔵氏より「地域のみんなで子育てを」というテーマで、子育て支援の３つの大きな取り組み「保育の出前」「シニアサロン」「おやじ会」についての事例発表があった。神川氏より「地域の宝、未来への希望をみんなで育てる」という副題で、「生きる力」「基本的生活習慣」「親支援」についての講義のあと、質疑応答がなされた。

参加者の感想：○生活リズム（睡眠）が子どもの成長にとって大切だということを、もっと保護者に知ってもらいたいと思った。○子どもと関わっていく毎日、保護者との関わりを大切にし、子どもにとって大切なことは？という思いで関わっていきたいと思います。

第６分科会　「地域における子どもの健全育成」

講師：宮田伸朗氏（富山国際大学子ども育成学部教授）

事例発表者：山上留美氏（富山市子育て支援センター主査保育士）、濱下峰子（氷見市地域子育てセンター主査）

概要：山上氏より「支援体制の充実から地域へ広がる子育てサポート」というテーマで、富山市の相談業務について、濱下氏より「公民協働の子育て支援」というテーマで、氷見市のネットワーク会議についての事例発表があった。宮田氏より「公民の連携・協働による子育ち・子育て支援」という副題で「健全育成」の理念・担い手、子育て支援における３つの視点が示された。

参加者の感想：○住民参加（公民協働）の子育て支援活動の実践報告に感動すると共に、我が市が進めようとする施策の参考になった。「熱い思いと思いやり」が人を動かすということがよくわかった。○「ネットワーク会議」を立ち上げて、これからどうしようかと考え中でしたので大変参考になった。

■オープン発表

『避難所における子育て支援』

福島県　長尾トモ子さん（チャイルドハウスうねめ保育園園長、福島県・県会議員）

３月11日(金)の震災直後の状況や現在の被災状況について、写真を紹介しながら子どもたちの現状を中心に語っていただきました。福島では、地震・津波に加えて、原発事故の被害にあるため、多くの人々が不安と恐怖のなかで避難しています。子どもを放射能から守るために、さまざまな取り組みや援助が行われており、全国から多くの支援と励ましがあるということです。県外に避難している子どもたちは８月現在で６万人、県内に残っている子どもたちも多くいますが、親たちは子どもの健康や将来のことを非常に心配しています。自治体の取り組みとしては、「放射線量低減化対策に係る手引き」のパンフレットを作成し、配布しました。それは子どもたち自身が放射線について理解し、自分の身を守るためのものです。全国の子どもに関わる私たちも被災地の現状を知り、各地域でできる支援をこれからも続けていきたいと思い

ます。

■富山宣言

富山県子育て支援センター連絡協議会会長、全国セミナー2011 in 富山開催実行委員会委員長　柳溪暁秀氏より『富山宣言（案)』が読まれました。

■次回全国セミナー開催地の紹介

宮崎県延岡子育て支援センター「おやこの森」理事長　木本宗雄氏より挨拶

2013年秋　第４回子育て支援センター全国セミナーを宮崎県宮崎市で開催予定

■記念講演

「おかあさんといっしょの歌のお姉さんから子育て体験まで」神埼ゆう子さん

富山で開催された第３回子育て支援センター全国大会は、すべてのプログラムが充実した学びのときとなりました。参加者からは、「子育て支援センターの今後の展開や目標にできる具体的な事例を聞くことができ、富山にきてよかった。次回は宮崎県とのこと、それまでに一歩でも進歩するようがんばろうと思った」という感想がありました。また、「スタッフの方々の笑顔がとても温かく、優しさとおもてなしの心が伝わってきた」という感想もありました。この大会のために様々な準備と配慮をして頂いた、富山県子育て支援センター連絡協議会のスタッフのみなさんに感謝いたします。

付録：アンケート調査票

子育て支援アンケート〔保護者用〕

2011年７月　　日本保育協会
地域における子育て支援調査研究委員会

この調査は、子育て支援事業を利用されている保護者のみなさんを対象に、利用実態やニーズをお聞きして、今後の子育て支援事業の発展に役立てることを目的として行われるものです。調査の結果については、個人が特定されることがないよう統計的に処理が行われます。また目的以外に使用することも一切ありません。調査は任意のもので、答えたくない項目や答えにくい項目については空欄のままで結構です。ご協力よろしくお願いいたします。（なお、回答は平成23年7月現在でお答えください）

あなたとお子さんのことについてお尋ねします。当てはまる番号に○をし、（　）内に記入をお願いします。

１　子どもの人数と年齢 ―― 子ども（　　）人　（　　）歳・ヶ月　（　　）歳・ヶ月　（　　）歳・ヶ月
２　保護者の年齢 ―――― １．20歳未満　２．20歳代　３．30歳代　４．40歳以上
３　居住地域 ―― （　　）都・道・府・県　1. 市街地　2. 郊外の住宅地　3. 工業地　4. 農漁村地

問１　利用している子育て支援事業についてお尋ねします。

（１）子育て支援センターをどのくらい利用していますか。月・週（　　）日　　１日平均（　　）時間

（２）その他子育て支援事業で利用しているものは何ですか。利用しているものすべてに○をつけてください。

１．保育所併設のひろば　２．つどいのひろば　３．児童館での子育て支援　４．幼稚園での子育て支援　５．ＮＰＯの子育て支援　６．子育てサークル　７．保健所の講習・子育て相談
８．児童クラブ・放課後クラブ　９．その他（　　）

問２　子育ての状況をお尋ねします。あてはまる番号に○をしてください。（複数回答可）

１　ほとんど母親一人で子育てをしている
２　夫の協力がある
３　祖父母やきょうだいなどの協力がある
４　隣近所や友人との交流や助けがある
５　一時保育やファミリーサポートセンターを利用することがある

問３　子育て支援の施設を利用して、次のようなことをどの程度感じていますか。当てはまる番号に○をしてください。

		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1	子どもにとって安心して過ごせる場である	4	3	2	1
2	保護者にとって居心地のよい場である	4	3	2	1
3	子どもの生活面（食事・睡眠・排泄など）への助言や助けがある	4	3	2	1
4	子ども同士が交わったり、集団遊びが経験できる	4	3	2	1
5	様々な年齢の子どもに適した環境である	4	3	2	1
6	保育者（職員）が積極的に話しかけてくれる	4	3	2	1
7	保護者の要望を把握して対応してくれる	4	3	2	1
8	地域の親子に子育てに関する情報を提供してくれる	4	3	2	1
9	保育者（職員）が親しみやすい雰囲気である	4	3	2	1
10	保護者同士の交わりや仲間づくりの機会がある	4	3	2	1
11	保育者（職員）に気軽に相談できる	4	3	2	1
12	親子や家族で楽しめるイベントがある	4	3	2	1
13	専門家を招いての子育てに関する講座がある	4	3	2	1
14	体験・実践（料理など）できるプログラムがある	4	3	2	1
15	父親が参加しやすい環境やプログラムがある	4	3	2	1

問４　子育て支援を利用して気持ちや周囲の変化はありましたか

		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
1	子育ての負担感がなくなった	4	3	2	1
2	不安やイライラが少なくなった	4	3	2	1
3	孤独感がなくなった	4	3	2	1
4	子どもとの関係がよくなった	4	3	2	1
5	家庭が明るくなった	4	3	2	1
6	子育てが楽しくなった	4	3	2	1
7	何も変わらない	4	3	2	1
8	親同士の関係に気を使うことが多くなった	4	3	2	1
9	情報がさまざまで不安になってきた	4	3	2	1
10	職員との関係で利用しにくくなった	4	3	2	1

問５　これからの子育て支援事業には、どのような活動が必要だと思いますか。
重要だと思う順に３つ選んで、番号を記入してください。

1　子どもの育ちを豊かにする支援
2　保護者にとって子育てが負担にならない支援
3　子育てのノウハウを伝えていく支援
4　親と子の生活経験が豊かになる支援
5　仕事と子育ての両立支援
6　経済的な支援の充実
7　保育施設や子育て支援施設の充実
8　虐待予防・発見のための支援
9　児童期の子どもや親を対象にした支援
10　父親を対象にした支援
11　子どもから高齢者まで地域の人が繋がるための支援
12　その他（　　）

１番	２番	３番

問６　子育て支援に関するご感想、ご意見を自由にお書きください。

（　　）

ご協力いただき、ありがとうございました。

〔支援者アンケート〕

子育て支援アンケート　於：第３回全国セミナー2011 in 富山

2011年８月　　日本保育協会
地域における子育て支援調査研究委員会

この調査は、子育て支援事業を利用されている保護者のみなさんを対象に、利用実態やニーズをお聞きして、今後の子育て支援事業の発展に役立てることを目的として行われるものです。調査の結果については、個人が特定されることがないよう統計的に処理が行われます。また目的以外に使用することも一切ありません。調査は任意のもので、答えたくない項目や答えにくい項目については空欄のままで結構です。ご協力よろしくお願いいたします。（なお、回答は平成23年8月現在でお答えください）

あなた自身と施設についてうかがいます。各々の項目について当てはまる番号に○をし、(　)内に記入をお願いします。

１　年齢 …… １．20歳代　２．30歳代　３．40歳代　４．50歳以上
２　経験年数 …… 保育(　　)年　子育て支援(　　)年
３　職位 …… １．管理職　２．実践者（常勤）　３．実践者（非常勤）　４．ボランティア
４　勤務(担当)先 …… １．保育園　２．保育所併設型子育て支援センター　３．単独型子育て支援センター
４．児童館　５．子育てひろば　６．その他（　　）
５　設置主体 …… １．公立　　２．私立
６　施設の地域 …… (　　)都･道･府･県　１．市街地　２．住宅地　３．工業地　４．農山漁村地
７　子育て支援の開所日数 …… 週(　　)日　１日の利用人数(平均) …… 約(　　)人
８　施設の子育て支援を行っている年数 …… (　　)年目
９　子育て支援に携わる職員の人数 …… (　　)人

問１　子育て支援の活動内容についてお尋ねします。
（１）あなたの施設ではどのような支援活動をしていますか。実践している活動すべてに○をしてください。

１．園庭・保育室開放　２．子育て情報の提供　３．子育て相談　４．親子遊び　５．子育て講座・講習　６．子育て通信の発行　７．保育園の体験保育や行事参加　８．イベント　９．父親参加のプログラム　10．地域の中高生やお年寄りとの交流　11．子育てサークルの支援　12．一時保育　13．親支援プログラム　14．訪問支援　15．その他（　　）

（２）上記の活動のなかで、特に力を入れているものと今後取り組みたいものの番号を記入してください。（いくつでも）
特に力を入れているもの〔　　〕　今後取り組みたいもの〔　　〕

問２　子育て支援活動のなかで保護者から、次のような話を聞いたり、相談を受けたりしていますか。

		よくある	ときどきある	たまにある	ほとんどない
1	家庭での子どもの様子や出来事	4	3	2	1
2	子育てのなかで楽しかったことや嬉しかったこと	4	3	2	1
3	子どもの生活面（睡眠、食事、排泄など）について	4	3	2	1
4	子どもの発育、発達について	4	3	2	1
5	子どもの病気や健康について	4	3	2	1
6	子どものしつけや教育について	4	3	2	1
7	子どもと親のかかわり方や遊び方について	4	3	2	1
8	保護者同士の人間関係について	4	3	2	1
9	夫婦（両親）に関すること	4	3	2	1
10	子どもの兄弟・姉妹に関すること	4	3	2	1
11	子どもの祖父母や親族に関すること	4	3	2	1
12	保護者自身の精神面、健康面に関すること	4	3	2	1

問３　保護者の話を聞いたり相談を受けたときに感じたことや気付いたこと、良かったことや困ったことなどをお書きください。

（　　）

問４　子育て支援に携わる者として、次のようなことがどの程度できていると思いますか。

		よくできている	まあまあできている	あまりできていない	ほとんどできていない
1	子どもにとって安心して過ごせる場をつくる	4	3	2	1
2	保護者にとって居心地のよい場をつくる	4	3	2	1
3	子どもの生活面（食事・睡眠・排泄など）の援助や助言をする	4	3	2	1
4	子ども同士の交わりを援助したりあそびを提供する	4	3	2	1
5	異年齢の子どもに適した環境を用意している	4	3	2	1
6	保護者と積極的にコミュニケーションをとっている	4	3	2	1
7	保護者の要望を把握して対応している	4	3	2	1
8	地域の親子に子育てに関する情報を提供している	4	3	2	1
9	支援する者として親しみやすい雰囲気をつくっている	4	3	2	1
10	保護者同士の交わりや仲間づくりをうながしている	4	3	2	1
11	保護者の相談に気軽に応じている	4	3	2	1
12	親子や家族で楽しめるイベントを企画している	4	3	2	1
13	専門家を招いて子育てに関する講座を提供している	4	3	2	1
14	体験・実践プログラム（料理など）を提供している	4	3	2	1
15	父親が参加しやすい環境やプログラムを提供している	4	3	2	1
16	リフレッシュタイムなどの応援をしている	4	3	2	1
17	親と子どもの関係がよくなるように支援している	4	3	2	1
18	親自身が考えて自分でできるように支援している	4	3	2	1
19	利用していない人へのＰＲやアプローチをしている	4	3	2	1
20	特別な支援を必要としている子どもや親の発見に努めている	4	3	2	1
21	難しいケースは他の職員と協力して対応している	4	3	2	1
22	他の支援施設や機関との協力体制がとれている	4	3	2	1

問５　子育て支援は、今後どのような方向性が必要だと思いますか。
重要だと思う順に３つ選んで、番号を記入してください。

1 子どもの育ちを豊かにする支援
2 保護者にとって子育てが負担にならない支援
3 子育てのノウハウを伝えていく支援
4 親と子の生活経験が豊かになる支援
5 仕事と子育ての両立支援
6 経済的な支援の充実
7 保育施設や子育て支援施設の充実
8 虐待予防・発見のための支援
9 児童期の子どもや親を対象にした支援
10 父親を対象にした支援
11 子どもから高齢者まで地域の人が繋がるための支援
12 リフレッシュタイム応援
13 その他（　　）

１番	２番	３番

問６　子育て支援に携わる者として、今後どのような学び・研修に参加したいですか。

		とても参加したい	参加したい	できれば参加したい	あまり臨まない
1	家庭での子どもの様子や出来事	4	3	2	1
2	子育てのなかで楽しかったことや嬉しかったこと	4	3	2	1
3	子どもの生活面（睡眠、食事、排泄など）について	4	3	2	1
4	子どもの発育、発達について	4	3	2	1
5	子どもの病気や健康について	4	3	2	1
6	子どものしつけや教育について	4	3	2	1
7	子どもと親のかかわり方や遊び方について	4	3	2	1
8	保護者同士の人間関係について	4	3	2	1
9	夫婦（両親）に関すること	4	3	2	1
10	子どもの兄弟・姉妹に関すること	4	3	2	1

問７　子育て支援に関してのご意見を自由にお書きください。

（　　）

ご協力いただき、ありがとうございました。